



# 名古屋学院大学 (愛知県)

「敬神愛人」の精神に基づき、国際教養人材を育成する

## ■大学紹介

### ① 大学の特色及び概要

1964年に誕生した名古屋学院大学は開学当初より、フレデリック・チャールズ・クライン博士の理念「敬神愛人」の精神に基づく一貫教育の完成をめざし、人文、社会、自然科学の各分野にわたる総合大学を志向してきました。

以来、高度化し多様化する社会ニーズにこたえる新学部を設置を図り、半世紀に及ぶ歴史のなかで、9学部を有する中部圏屈指の総合大学に成長。

人間と社会に密着した多様な領域の研究と活動を通して、真理に対する真摯な姿勢と、その探求への積極性を育て、人間愛をもって、自らの成長を社会に役立てることのできる心豊かな「国際教養人」の育成を進めています。

学 部 生： 6,282名

大学院生： 68名

専任教員： 152名

学 部 数： 9学部（経済、現代社会、商、経営、法、外国語、国際文化、スポーツ健康、リハビリテーション）

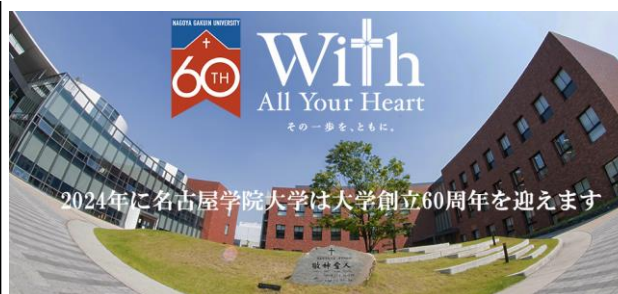
大 学 院： 2研究科（経済経営、外国語）

※統計は2025年5月1日現在

### ② 国際交流の実績

協定大学数： 12カ国・地域、85大学  
(2025年5月1日現在)

留学生数： 27名 (2025年5月1日現在)



### ③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数 41人、日研生 0人

2024年：留学生数 54人、日研生 0人

2023年：留学生数 49人、日研生 0人

2024年度より文部科学省「日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加。

### ④ 地域の特徴

名古屋学院大学が所在する名古屋市熱田区は、熱田神宮を始め断夫山古墳や白鳥古墳、また江戸時代に街道一の賑わいをみせたといわれる宿場の面影を残すなど、歴史的文化遺産が数多く点在しています。

またデザイン都市名古屋のシンボルともいえる名古屋国際会議場が名古屋学院大学に隣接し、現在、国際交流の場として、国際会議・式典・コンサートなどに広く利用されています。

名古屋学院大学は「2013年度文部科学省地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の採択をきっかけに地域の方と一緒に商店街活性化・観光推進・減災支援など、実に幅広い領域で様々な地域連携事業に取り組んでおり、地域と密着した国際教育を特徴の一つとしています。

## ■研修・コースの概要

### ① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

### ② 研修・コースの特色

名古屋学院大学留学生別科（日本研究プログラム）は、1989年に開設されました。本別科は学校教育法上、大学の教育の一環として位置付けられた修業年限1年の教育課程であり、海外諸大学から日本研究を目指す者（交換留学生等）や日本の大学・大学院への進学を希望する者に日本語及び日本事情に関する科目を教授しています。

- 日本語科目は、毎学期初めに実施するプレイスメントテストにより、学生それぞれの習熟度にあわせてクラス分けを行い、個々の日本語能力に適した学習を行います。
- 日本事情科目は経済や社会、経営など幅広い分野について日本語・英語で授業を開講しています。
- 日本語と日本文化を学ぶことができるよう、多彩な課外活動にも参加することができます。また、キャンパス内の「国際セミナーハウス」には学習や生活のサポートする日本人学生が一緒に住んでいます。
- 留学生は日本人学部学生と同様に全ての施設を利用することができます。

### ③ 受入定員

2名（大使館推薦2名）

#### ④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ J L P T : N2以上に合格していること
- ・ 日本語又は英語で会話が可能であること。

#### ⑤ 達成目標

- ・ 専門的なプレゼンテーションやニュース、ドキュメンタリーを聞いて内容を理解することができる。
- ・ 社会や生活の幅広い話題についての議論を理解し、自分の意見を述べることができる。
- ・ 様々な種類の複雑な文章を読んで、内容を理解することができる。
- ・ 論拠を整然と展開して、エッセイやレポートを書くことができる。

#### ⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月18日～2027年7月15日

※ 都合により変更の可能性があります。

#### ⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年7月



#### ⑧ 研修・年間スケジュール

- 8月下旬： 渡日（2026年は 9月10日予定）  
10月： オリエンテーション  
陶芸体験  
11月： フィールドトリップ  
国際交流キャンプ  
ハロウィンイベント  
12月： インターナショナルフードフェス  
クリスマスイベント  
1-2月： 冬季集中講座  
4月： お花見  
新入生交流会  
5月： フィールドトリップ  
6月： 日本文化体験イベント  
7月： 修了式  
7月下旬： 帰国

#### ⑨ コースの修了要件

<日本語科目>

- 必修科目： 16単位（各学期 8単位）  
選択科目： 2単位（会話練習 1単位/学期）  
選択科目： 2単位（冬季集中講座）

日本語： 8コマ/学期（日本語Ⅰ-Ⅲ）  
6コマ/学期（日本語Ⅳ）  
合わせて学部科目1科目  
2コマ/学期（日本語Ⅴ）  
合わせて学部科目3科目

※ 日本語科目は「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」、「漢字」を基本とし、複数の教員がチーム制で担当している。

<日本事情科目>

- 選択科目： 8単位以上（各学期 4単位）

<そのほか>

- 日本文化研修を目的としたフィールドトリップを実施している（参加費無料）。これには必ず参加すること。
- コース修了者には修了証明書および成績証明書を発行する。

#### ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

##### 1) 研修・コース科目の特徴

- ・ 日本語科目は、毎学期初めに実施するプレイスメントテストにより、学生それぞれの習熟度にあわせてクラス分けを行い、個々の日本語能力に適した学習を行います。
- ・ 日本事情科目は経済や社会、経営など幅広い分野について日本語・英語で授業を開講しています。
- ・ 日本語と日本文化を学ぶことができるよう、多彩な課外活動にも参加することができます。

##### 2) 研修・コース科目

###### I) 必須科目・内容

日本語1-5・・・学習者の日本語レベルに応じ8レベルに分けて実施

###### II) 選択科目・内容

<日本語科目>

日本語概論1、2 / 日本語会話a、b

<日本事情科目>

日本の宗教 / 日本の歴史 / 日本の文学  
日本の経済 / 日本の経営 / 日本の社会  
日本の政治 / 日本の観光 / 日本の文化  
日本の国際関係 / 日本事情演習1、2  
異文化間コミュニケーション / スポーツ1-3  
インターンシップ / 日本事情総合1-5

※ 選択科目は上記科目より4科目以上を履修すること

##### 3) 研修・コース科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

- ・ 留学生は日本人学部学生と同様に全ての施設を利用することができます。本学の国際教育拠点（グローバルリンクス）では地域と世界をつなぐをコンセプトとした各種プログラムを実施しており、留学生も参加することができます。

##### 4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

会話練習・・・学部の日本語教員養成講座を受講している学生が講師となり、日本語会話を練習する



## ⑪ 指導体制

- ・須川精致（教授、留学生別科長 兼 国際センター センター長、専門：英語学）
- ・宮坂清（准教授、留学生別科学務主任、日本事情科目担当、専門：文化人類学、民俗学）
- ・阿部太郎（教授、留学生別科学務委員、日本事情科目担当、専門：経済学、理論経済学）
- ・末松大貴（任期制講師、留学生別科学務委員、日本語科目担当、専門：日本語教育、実践研究、質的研究）
- ・横川未奈（任期制講師、留学生別科学務委員、日本語科目担当、日本語科目コーディネーター、専門：日本語）



- ・日本語非常勤講師：10名
- ・日本事情非常勤講師：16名（学部教員を含む）

## ■宿 舎

国際セミナーハウスは外国人留学生・交換留学生のための寮・宿泊施設です。名古屋キャンパスしろとり内にあり、共有のラウンジもあるため、留学生以外の学生も気軽に訪問することができ、活発な国際交流の場となっています。また、毎学期「レジデントアシスタント」として日本人学生入居者も募集します。また国際セミナーハウスの他に国際セミナーハウスアネックスがあります。こちらの留学生寮はアパートメント式となります。

### <宿泊費>

- 国際セミナーハウス  
120,000円～140,000円 / 学期  
90,000円～105,000円 / 冬季集中講義期間
- 国際セミナーハウス・アネックス  
108,000円～152,000円 / 学期  
81,000円～114,000円 / 冬季集中講義期間



International Seminar House



## ■インターナショナル・ラウンジ

インターナショナル・ラウンジ（i-Lounge）は名古屋学院大学の国際教育の拠点として2018年9月にリニューアルしました。

i-Loungeでは大きく「語学学習支援」「異文化理解」の機能があり、日本語だけでなく、英語や中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語など様々な言語を学ぶプログラムや、日本人との交流を通じ、日本文化や、留学生の母国文化を紹介する機会があります。



## ■修了生へのフォローアップ

修了生とは必要に応じて国際センターとメールを通じていつでもやり取りができるようにしています。

## ■問合せ先

<担当部署>  
名古屋学院大学 国際センター

住所：〒462-0023  
愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-25

TEL：+81-52-678-4093（直通）  
FAX：+81-52-682-6824  
Email：kouryuu-center@ngu.ac.jp

<ウェブサイト>  
名古屋学院大学：  
<https://www.ngu.jp/ijs/>